

# 25. 小堤遺跡

調査地 野洲市小堤 500 番

調査原因 工場建設

調査期間 令和3年5月12日

## 1. 調査経過

小堤遺跡は、旧石器時代から江戸時代までの集落跡と周知されている。

今回の調査は工場建設に伴う試掘調査で、当該地は令和2年度に試掘調査を実施しているが、その後計画が変更になり、建物建築範囲が拡大したため、追加で2ヶ所の調査区を設定して調査を実施した。調査区1は4.0m×2.0m、調査区2は3.0m×3.0m、調査面積は約17.0m<sup>2</sup>である。

## 2. 調査成果

### (1) 調査区1

地表面下約2.2mまで掘削を行った。地表面下約1.4mまでは盛土(1・2層)で、その下に明緑灰色砂質層(3層)と暗灰黄色粗砂層(4層)が続き、地表面下約2.2m(標高約105.2m)で褐灰色粘土層(5層)を確認した。この粘土層が遺構面と判断でき、壁の崩落を防止するために限られた範囲内で検出を試みたが、遺構は確認できなかった。

### (2) 調査区2

地表面下約1.8mまで掘削を行った。地表面下約1.4mまでは盛土(1～4層)で、盛土直下の標高約106.0mで地山である浅黄色粗粒砂混シルト(9層)を確認した。この地山は調査区の南から北へ向けて急激に落ち込んでおり、平面でも明瞭に観察できた。落ち込みには植物遺体を含んだ砂などが堆積していた。地表面下約1.8mまで掘り進めたが、水が染み出してきたため、安全確保のためにこれ以上の掘削を断念した。落ち込みは地形に起因するものと思われる。

## 3. まとめ

今回の調査では、遺構・遺物は確認できなかった。令和2年度に実施した試掘調査においても、遺構・遺物は確認されておらず、本調査地周辺は小堤遺跡の縁辺部にあたるものと評価できる。(芦塚)

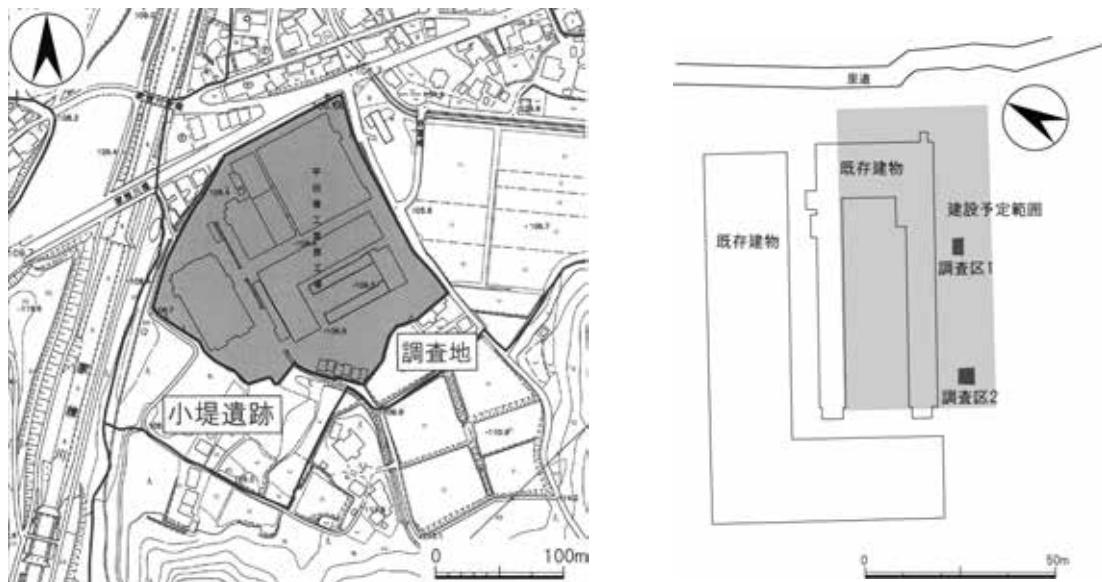


図1 調査地位置図・調査区配置図

25. 小堤遺跡

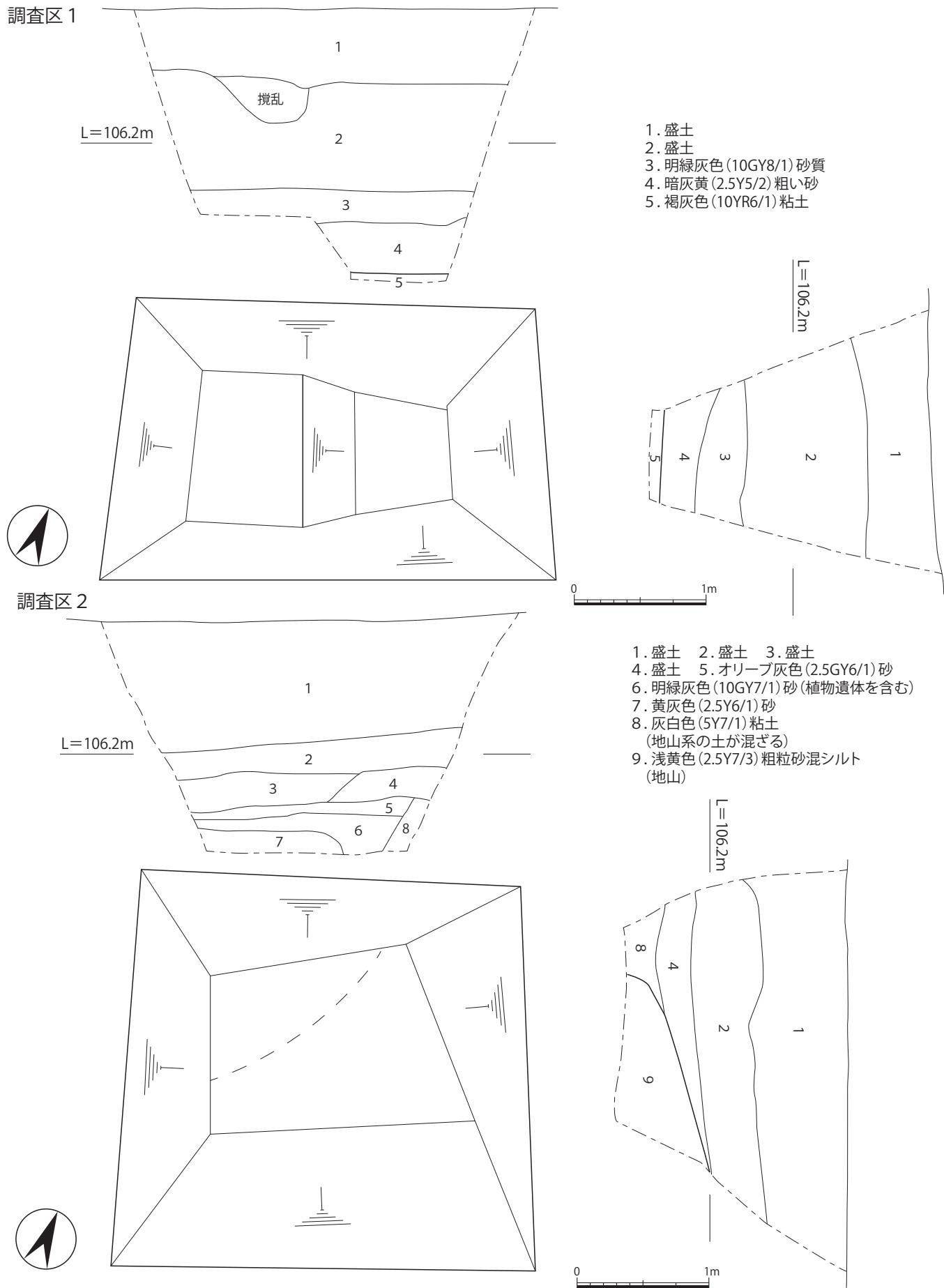


図2 調査区平面図・土層断面図



調査区1 全景（西から）



調査区1 東壁土層断面



調査区2 全景（南から）



調査区2 北壁土層断面